

連載 巨匠たちの「技と心」

神は細部に宿る

第23回 ミシェル・シュヴァルベ

ゲスト：浦川宜也（ヴァイオリン）

伝説的巨匠たちの至芸を縁のゲストとともに振り返っていく連載「巨匠たちの『技』と『心』」。第23回目のテーマは、「カラヤンのコンサートマスター」として名高い、ミシェル・シュヴァルベ。ゲストにはシュヴァルベに師事した日本ヴァイオリン界の巨匠、浦川宜也さんを迎えた。

取材・文：征矢健之介
Text: Kennosuke Soya

他の巨匠に比べても遜色ない 圧倒的ヴァルトウオジテイ

今回取り上げるのは、ミシェル・シュヴァルベ（1919～2012、ポーランド）である。シュヴァルベはいわゆる「カラヤン時代」のベルリン・フィルハーモニー管弦楽団のコンサートマスター（在任：1957～85）として有名で、ヘルベルト・フォン・カラヤンのお気に入りであった。ワルシャワ音楽院、パリ音楽院で学び、ジョルジュ・エネスコ、カール・フレッシュなどに師事したシュヴァルベは、ポーランド生まれながらスイスを故郷とし、スイス・ロマンダ管弦楽団のコンサートマスターやジュネーヴ音楽院の教授として忙しく音楽活動をしてきたところ、カラヤンに招かれベルリン・フィルに入団したのである。ソロ・ヴァイオリニストとしての知名度は他の巨匠に比べてそれほど高くないが、そのヴァ

ルトウオゾぶり、圧倒的な演奏能力は凄まじく、例えばサンサーンス「ヴァイオリン協奏曲第3番」第1楽章、ソロ・パートの冒頭を聴いただけで明らかに彼だとわかるほど、その音楽のインパクトは強烈だ。他を寄せつけない独自の世界が溢れてきて、その音楽性、卓越した技術、そして気迫は、どの巨匠と比較しても引けを取らない。ぜひ、御一聴あれ。



征矢健之介 Kennosuke Soya
1954年長野県生まれ。ヴァイオリンを萩原耕介、ルイ・グレーラーの各氏に師事。元・東京シティ・フィル第1ヴァイオリン奏者として、数々の名演奏家たちと共演。また、指揮者、評論家としても活躍する。



浦川宜也 Takaya Urakawa
1940年東京生まれ。鈴木慎一、小野アンナに師事。65年バンベルク交響楽団第1コンサートマスターに就任。81年に帰国し、独奏から後進の育成まで多岐にわたって活躍している。東京クラシックプレイヤーズ主宰。東京芸術大学名誉教授、「小野アンナ記念会」会長。2017年ミュンヘン市に若い芸術家の支援を目的とした公益財団法人「浦川宜也財団」を設立、その理事長に就任する。

誠実に、細かく、厳しく 基本的奏法を徹底的に

「まず、シュヴァルベ先生に教えていただけということは、私にとっては大変な感激でした。ただ私は、基礎的なことがあまりできておらず、半ば我流の奏法でしたので、まずは基本を徹底的に指導されました」

日本ではすでにソリストとして活躍していたにもかかわらず、である。

Michel Schwalbé
1919～2012

「何しろエチュードをたくさんやらされました。クロイツェル、フィオリロ、ロレーなどです。パガニーニは『まだ早い』とも仰いました。クロイツェルの『練習曲第7番』は、普通弓の先のほうで音を切って練習するものですが、先生は私に、弓の元のほうで音をつなげて滑らかに演奏するように仰るのです。また、フィオリロの『第28番』では、肘や手首や指を使って滑らかに移動することを徹底的に叩きこまれ、これを『毎日やりなさい』と。そのお言葉の通り、今でも毎日弾いています。左手に関しては仰られたのは、指を弦に落とすときは素早く、落とした

らすぐに抜く、この力の加減、緩急でした。左手の親指の使いかたなども細かく指導されましたね。そして何より、『演奏するときはポジティブ（注：ある音程に対して左手の位置を固定すること）を忘れる』という先生のお言葉は、今でも忘れられません」

それらのエピソードから察する通り、シュヴァルベのレッスンは厳しかったようだ。『音階練習について、1週間、ある調の音階を毎日弾き続けて、次の週に違う調、また次の週に……』と指導していた。1週間弾き続ければ身体が

慣れていくという考えでしょうか。とにかく『自分の真似をしろ』と仰り、ほんの少しでも練習をさぼっていると、教えてもらえないことさえありました。ちなみに、私も自分の生徒から厳しい先生だと言われていたようです（笑）

最後に浦川さんは切々と、熱く、シュヴァルベの偉大さを語ってくれたのである。

「コンサートマスターをしているときのシュヴァルベ先生は、その弓使いを見ただけで、それがどのような音楽なのか、わかるのです。『存在しないかたがいたしやったらぜひ聴いていただきたいの

今月の巨匠

ミシェル・シュヴァルベ

Michel Schwalbé

1919年10月27日～2012年10月9日

ポーランド生まれ。ワルシャワ音楽院、パリ音楽院で学ぶ。1944～46年、スイス・ロマンダ管弦楽団のコンサートマスターを務めた。1957年からヘルベルト・フォン・カラヤンに招かれ、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団第1コンサートマスターに就任。1985年までその任にあった。教育者としても活躍し、服部譲二、安永徹などが師事した。

公演情報

浦川宜也×東京クラシックプレイヤーズ2020
2020年3月28日、Hakuj Hallで開催予定。

浦川室内合奏団第4回演奏会

〈日時・会場〉2020年5月27日19時15分・ムラマツリサイタルホール新大阪

〈曲目〉ベートーヴェン「弦楽四重奏曲第14番」〔弦楽合奏版〕、他

〈問合せ〉公式ホームページ <http://uco.takaya-urakawa.com/>